

あなたのカナエルをカタチに

今、遠賀で起業する

第6回 遠賀町ビジネスプランコンテスト

「こんなことができたら」。そんな思いをビジネスにするための第一歩は、ビジネスプランを作ることです。遠賀町の地域資源を活用したり地域課題解決につながったりするもの、そして実現性があるプランを募集するこのコンテストには、今年度は24件の応募があり、書類審査とプレゼンテーション審査の結果、各賞を決定しました。また、今回は、「遠賀企業賞」として、遠賀町内の協賛企業団体7社の賞を決定しました。



グランプリ

遠賀企業賞

- ・遠賀町商工会賞
- ・遠賀信用金庫賞
- ・日進化学株式会社賞

高山 友紀子さん

プラン名

『遠賀川駅前横丁プロジェクト』

コロナ禍で閉店を余儀なくされた飲食店が、再起をかけて入居する「横丁」を遠賀川駅前商店街に作り、遠賀町とのコラボレーションとして各店1品は遠賀町の産物(米・ウキ・菜種油など)を使った魅力あるメニューを創作。さらに、話題性を持たせるため、プロジェクトスタート時から、SNSやYouTubeで「横丁をつくりあげる様子」を発信し、遠賀町に「わざわざ遊びに来る」人を増やしていくプラン。



準グランプリ

遠賀企業賞

- ・株式会社福田工務店賞

安藤 隆之さん

姫野 律子さん

プラン名

『高齢者デイサービスを基盤に食・宿泊・子供自習室で医介スタッフを支援するプロジェクト』『社会の要請に応えるプロジェクト』

高齢者デイサービス立ち上げ時に、建物内に飲食や宿泊のスペースを設け、シフト制で昼夜問わず勤務する医療介護等の従事者が、必要な時だけ利用できる宿泊所、手軽に摂れる食事提供、子どもの一時預かりなどの支援事業を合体した複合事業に発展させるプラン。



輝く未来の ビジネスプラン賞

遠賀企業賞

- ・遠賀屋靴(こめのはな)賞

沢津橋 紀洋さん

プラン名

『大学生と地域が繋がる、空き家を活用した集住型プログラミング寺子屋の立ち上げ』

空き家を活用した自然豊かな環境で学生用シェアハウスを作り、そこに住む大学生を講師に「大学生から教わる小学生向けプログラミング寺子屋」を開設する。地域に大学生が暮らすことで活気が生まれ、さらに地域のICT教育水準も向上するプラン。



※遠賀企業賞は2Pにもご紹介しています。



詳しくは…

遠賀企業賞

株式会社西部警備保障賞

荻田 柚月さん
牧 洋平さん

プラン名

『遠菓子大作戦 米粉・洋菓子で遠賀町の魅力を伝えよう』



遠賀町のプラン
ド米「夢れんげ」の米粉を製造し、町内の洋菓子店に材料として販売。共通口ゴヤバッグのデザ

株式会社ハセガワ食綜賞

牛濱 佑紀さん

プラン名

『ご年配の方の「コミュニケーションや癒しの場』』



角打ちでお酒を提供することで、外出や人と会うことが減っているお年寄りを中心に、「ミニネーションや癒しの場を作り、遠賀町を活性化していくプラン。

PIPPI交流会

第36回 6月22日開催

テーマ

「地域に根ざす起業家」



「健康づくりも地産地消ー古民家活用で地域の保健室へ『好き』を仕事にできる喜びー」

株式会社NewSupport 代表取締役 塩生 好紀氏

地域の他の施設や企業などとの関わりや繋がりを大切にする、地産地消の健康づくり。

「地域に新しい仕事を作るといふ事」

一般社団法人MMA 代表理事 岡野 涼子氏

今あるものに新しい価値を付加することで「若者が地域で暮らせる仕組みづくり」ができる。

「農山村に暮らす人と都市に暮らす人をつなぐ」持続的で豊かな暮らしと仕事を考える」

認定NPO法人 山村塾 理事長

小森 耕太氏

多様な人に活動に参加してもらい、それぞれの立場で持続的で豊かな暮らしや仕事を考えてもらうことが大事。



岡野氏 小森氏 塩生氏

第37回 7月15日開催

テーマ

「地域や人をつなげている起業家」〜物語、人間力、挑戦〜



「楽しいお酒 楽しむお酒 焼酎女子会enjoy!」

焼酎プロデューサー 合同会社Hartonic 代表

黒瀬 暢子氏

様々な企業や団体とコラボレーションすることで焼酎の魅力や文化を拡散。

「経営者が身につけておくべき7つのスキル」〜これがなければ経営者失格!〜

合同会社The Gate 代表 高山 友紀子氏

起業家としても経営者としても重要な「感情的知性」と「愛」は、訓練により培うことができる。

「自分の失敗を糧に挑戦を続ける人こそ、起業家に!!」

株式会社里山商會 代表取締役

吹上 紘子氏

自分(の力)を信じることで、そして、人の意見を聞き入れる柔軟さ(バランス力)を持つこと。



黒瀬氏 高山氏 吹上氏

第38回 9月22日開催

テーマ

「つくる、そだてる、とどける」〜食へのこだわりと事業継続〜



「6次産業化で、日本の農と食の距離を縮めるー」

有限会社串中育雛場 たまご工房 代表取締役

串中 五恵子氏

小規模経営こそ、リスク分散と自分の手による情報発信が必要。

「びつくり笑顔、作りましょう!」

「バルーンアーティストからチョコレート職人へ」

株式会社ルーネンツジャパン 代表取締役 之ヲトチヨリトチヨロナス代表

得居 裕江氏

自分が直接体験・経験することで得られる「二次情報」に価値がある。



「起す」というより「暮らし」を耕し、継ぎ繋ぐ山の中で経済をまわす小さな里山の地域事業継承」

天空カフェ店主/棚田の学校 主宰 余村 紫氏

小さな集落では守るものの優先順位を考えて「何を残すか」が重要。



「SDGsの実践を通じて、位置価値(地域価値)を高めつつある起業家たち2021」

地域資源を活用して地域の持続力を培ったり、「人づくり」や「コミュニティづくり」で地域力を高めたりしている九州各地の起業家に、起業や事業継続への想いを語っていただきました。



詳しくは…

起業する際の覚悟

〜起業をする前の心構え、苦労、そして喜び〜

有限会社ランドアース代表取締役社長 迫田 重光氏(熊本)



地元の球磨川で起業した29年前、「ゴムボートで川を下って飯が食えるか」と言われました。お客様も年間100人程で非常に厳しい経営でしたが、自分が一番好きなこととお客様に喜んでもらえるものを提供しようと、副業で得たお金をつぎ込んで事業を継続。4年目に雑誌に当社の記事が掲載され一気にブレイクしました。

伝統を継ぐ

〜7代目としての使命感〜

株式会社井上酒造代表取締役社長 井上 百合氏(大分)



老舗の歴史は改革を積み上げてきた努力の結果であり、時代のニーズに合わせて進化し続けなくてはなりません。清酒製造技術や農業を学び「百合仕込み」を新発売。個性的な味わいに仕上げ、3年後には15倍の生産量となりました。また、社員に経営状況を開示して経営計画を策定し「経営の見える化」に着手。目指すべき方向性を定め日々前進中です。

不登校の支援に福祉制度を用いた

ヒカリノアトリエの事例紹介

〜学校で抱えないなら民間でやるしかない部分〜

一般社団法人EET the NEW STYLE代表理事 山下 千春氏(佐賀)



自閉症スペクトラムなどの発達特性を持つ子どもたちは不登校になりやすい傾向があり、学校という場では安心して過ごせない子どもたちの支援として「放課後等デイサービス」の制度を利用して開設しました。放課後ではない時間帯でも制度上は活用出来ることがわかり、定員10名の子どもたちに対して複数の専門資格を持つスタッフが対応しています。

何とかなるの精神でチーム創業してみたら本当に何とかなった話〜経営知識ゼロの3人が勢いでチーム創業し8年間事業成長を遂げたワラガワ〜

株式会社Waris 共同代表 河 京子氏(福岡)



「時間と場所にとらわれない働き方を広げていきたい」と3人が意気投合し、広報やマーケティングのプロなど社内にはいない人材を一時的に求めている企業と、経験豊富な女性人材とのマッチング事業で起業しました。創業当時から全社リモートワーク、共同経営という形態なので、5年後10年後に目指すものを常にすり合わせるようにしています。

地域で起業し、シリーズA調達を行った、ベンチャー企業の話〜時代を一步前へ〜

テラスマイル株式会社代表取締役 生駒 祐一氏(宮崎)



農業というカテゴリで起業するには、宮崎は「モノがある現場に近い」という強みがあります。農業のデータを戦略的に集計して活用し、競争力のある未来をつくりたいと考え、資金調達は、最初は銀行、事業が進みだしたらベンチャーキャピタル、事業を成長させる段階である今はJAGグループなどから出資を得ています。

若者がチャレンジできる街に

〜産学官と連携し若者を後押しする仕事〜

一般社団法人フミタス代表理事 濱本 伸司氏(熊本)



全ての熊本の若者がワクワクしながらやりたい姿やりたいことに挑戦できる機会作りをしています。まず、大学や市、企業等に、「一緒に若者を育てる仕組みを熊本に作っていきましょ」という想いに共感していただき、新卒採用、パンフレットを学生が自ら作る授業など、お互いがWIN-WINになる実践型プログラムを提案し実施しています。

新規起業家紹介 **キラリPIPITさん**



焼菓子工房 Orange

北迫 昌子 さん

小さなお店ですが、すべてを手作りし、一つひとつの味にこだわって「焼菓子」作りをしています。

小さい頃からずっと独学でお菓子を作ってきた北迫さん。約10年前、勤めていた蕎麦屋のオーナーが作らせてくれた懐石料理のスイーツが好評だったことが、起業の芽を育みました。

令和2年の春ごろから、保健所、PIPIT、商工会、そして蕎麦屋のオーナーに相談して起業の準備を進め、遠賀川駅前の店舗は知り合いの方から紹介してもらったそうです。

店には生クリームを使ったお菓子もありますが、「私は焼菓子屋です。焼菓子の種類を増やし、来店してくれるお客様が毎回楽しめるような店にしたいですね。」と話されました。



ベーカリーテント

入田 政次郎 さん

入田 知沙 さん

翌日、翌々日食べてもおいしい製法で毎日食べても飽きない食パンが店のこだわりです。

パン職人として働いていたパン屋の閉店が決まった時、「この食パンをこれからも食べたい」というお客様の声で、開業を決意した入田さん。店舗を探し、開業するにはどうしたらいいかということからPIPITに相談して、令和3年6月に松の本に店をオープンされました。

「遠賀町は主要な町の真ん中で、店は3号線から近いので、商圈が結構広いです。お客様に足を運んでもらえる店づくり、そして、食パンをブームじゃなく長く続ける店にしたいですね。」と話されました。「食パン」の文字がシンプルに目立つのぼりがお店をアピールしています。

PIPIT Pオフィス 新規入居者紹介



合同会社 Office Fierte

代表 高山 友紀子 さん

役場や商工会とのつながりもでき、PIPITのサポートもあって、居心地のいいオフィスです。

オンライン秘書、パーソナルプロデュース、企業研修を主とする会社を令和2年7月に設立。本社は福岡市ですが、実家がある遠賀町のために何かできることがあるのではという想いがあり、遠賀にオフィスを構えて地元の方と触れ合いを持つことで見えてくることもあると考えて、入居しました。

会社員の時は自分の力で何かを変えるというのは難しかったですが、起業した今は、事業の継続はもちろん、遠賀町を活気づける事業のための別会社設立も視野に入れてやっていきたいと思っています。



株式会社いまサポおんが 一級建築士事務所

代表取締役 高槻 和広 さん

令和2年度ビジネスプランコンテスト遠賀町長賞を受賞して起業を決意しました。

定年後はこれまでの業務経験の延長上で、空き家の問題解決など住まい・まちづくりに関する仕事をしたいと考えていました。

その事業性を客観的に判断してもらおうとコンテストに応募。賞をいただいたことから令和3年4月に起業し、Pオフィスに入居しました。

社名は「いえづくり」「まちづくり」「いますぐサポート」から。空き家など住まいの点検、管理代行、住まい・まちづくりに関するコンサル業務などを通じて、終の棲家と決めた遠賀町の環境保全と活性化に貢献できればと考えています。

あなたの想いを形にしてみませんか。PIPITではアドバイザーが起業相談に応じます。



＜お問合せ先＞

●遠賀町起業支援施設PIPIT(ピピット)
月～金 10:30～19:00(年末年始・祝日除く)
〒811-4307 福岡県遠賀郡遠賀町遠賀川一丁目6番5号
TEL.093-293-2616 FAX.093-293-8234
メールアドレス info@pipit-onga.jp

●遠賀町 産業振興課 商工振興係
TEL.093-293-8233
メールアドレス ekimae@town.onga.lg.jp



ホームページ



Facebook



Instagram



メールマガジン登録

PIPITやPI'Sについての
お声をお聞かせください。



抽選で3名に「赤しそドリンク」をプレゼント!
令和4年2月20日まで受付しています。